

第6章 横矢板入れ

1) 準備

a. 作業概要

矢板面積 500㎡

矢板の厚さ 35mm

平均切断寸法 1.15m

使用工具：ハンマー、スコップ

保護具：保安帽、安全靴

丸鋸

b. 有資格者の確認をする。

(1) 土止め支保工作業主任者

(2) 玉掛技能講習修了者

(3) クレーン運転士、5t以上

講習修了者。

c. 掘削深さが1.5m程度以上掘削する場合は、掘削設備を設ける。

降のためのはしご、登りさん橋等の昇降

d. 矢板仮置場の確保。

e. 横矢板の所要厚さは、通常新設する。

土質等によって異なるので仕分けをす

2) 本作業

a. 矢板を入れる所の長さを測る。

・横矢板は、親ぐい(H鋼)

の長さのものをを用いる(3cm以上)。

b. 裏の土を矢板が入る程度掘削する。

・矢板をパッキング(こま)で
掘削し、矢板を取付け

線まで垂直に、かつ、一直線となるよう
うにする。

・矢板裏の余掘をしない。

c. 矢板入れ(根伐底より矢板)

(1) 機械掘削と併行して作業
業者が立ち入らないよう

分担区域をきめ、機械の稼動範囲内に作

(2) 1回の掘削深さは矢板を
ら50cm程度)までとす

できる程度(すでに入れた矢板の下端か

(3) 水の出るところでは矢板

ない。

d. 裏込めをする。

・矢板は親杭へのかかりし

る。

・矢板を差込んだら、1枚

(土)を入れて十分に締め固める。

e. キャンバー締めを行う。

・パッキングを打込んでガタがあるときは裏込め矢板を用いて裏から締める。

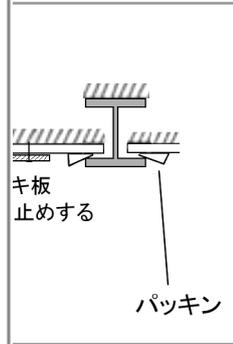
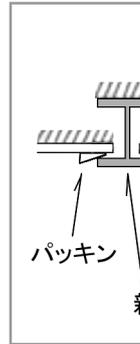
f. キャンバー押え桟木を取付ける。

・矢板を深さ1.5m程度まで建込んだら矢板押え用の「ヌキ板」(巾3cm、厚さ1.5cm程度)を矢板両端に釘止めをする。

<https://www.sekouya.com>

g . H鋼とH鋼との間隔が正規の寸法より大きくなれば、矢板の間にバタ角を入れる。

- (1) 間隔が開いている場合に矢板3枚に1本、2枚に1本というように補強用のバタ角を入れる。
- (2) 必要以上に間隔のある場合は、チャンネル等をH鋼に溶接し、それとバタ角にクサビを入れてとめる。

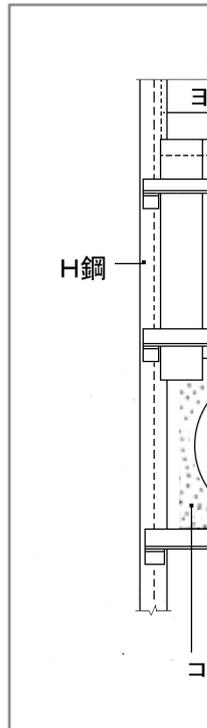


h . 埋設物周りの矢板の補強を要する。

- (1) 埋設物周りは、間隙が生ずる。
- (2) 埋設物周りが漏水しているのを防ぐ。

板などでふさぐ。

葉または土嚢袋を詰め込んで土砂の流出



親くい H鋼

アンゲルまたはチャンネルなどを溶接する

障害物まわり

i . 矢板面をハンマーでたたき空隙の有無をチェックする。

- ・裏込め土は充分押し込み地山と矢板の隙間のないようにする。
- ・矢板入れ後、キャンバーで締める (地山が移動始めるとキャンバーが落ちる)。

- ・ 矢板面より水が出る時は土砂の流出防止の処置をする。
- ・ 掘削が進んだ所まで必ず矢板を完成させる。
- ・ 矢板面をタタキ裏込めの状況をチェックする。

<https://www.sekouya.com>